赤川先生のこと

M⑧　大西　則彦　（横浜市）

私は昭和 35 年の卒業で、当時新進気鋭の赤川先生の第 6 講座でお世話になりました。もう 55 年も前のことですから　講義のこと、卒論のことなど　記憶が薄くなってまいりました。

しかし　赤川先生がおっしゃられた以下のことは　ずっと記憶に残り　その後の小生の人生においても　教訓となりました。

終戦からやっと立ち直って来た当時　アメリカでの研究留学を志しておられた先生は当時　難関であった国費でのアメリカ行きが決まった　とのことで張り切っておられました。実際に渡米されたのは昭和 42 年頃と　その後伺っておりますが。

国費留学が決まったことについて　先生は我々に

「実は　自分は　以前から「私費」覚悟でアメリカでの研究留学を希望し　相手先に論文を提出しトライをして来た。　しかし　相手からは　論文の技術的内容は評価されたが英語力に難点あり?ということで　失敗した。　しかしその後　今度は　日本政府から認められ「国費」で研究留学することが可能になりました。

結果的に　自分の英語力がもっとあったら　自分で費用を調達する必要があったが　たまたま英語力がプアーだったお蔭で?　今度は国費で研究留学できることになった。人生にはなにが幸いするか判らないものだよ。人生とはそうしたものです。」　と謙遜を交えて率直に語られました。

一度や二度の失敗で挫折することなく　これを糧にして頑張っておれば　おのずと　その後の人生とまではいえなくとも　道は開けてくるものだということを　我々に示唆されたものです。　難しい　二相流のことはほとんど忘れましたが　今でも　このことだけははっきりと記憶として残っています。

赤川先生にあらためて御礼申し上げ、ご冥福をお祈りいたします。

（ 終 ）